

# 京成電鉄株式会社

## サステナブルファイナンス・フレームワーク (2022年9月)



## 1. はじめに

京成電鉄株式会社（以下「当社」）は、サステナブルファイナンス・フレームワーク（以下「本フレームワーク」）を以下の通り策定致しました。サステナブルファイナンスの実行は、SDGs に沿った社会的課題の解決や当社のサステナビリティに係る活動を推進するための資金調達と位置付けており、ステークホルダーの皆様に対しては、改めて当社の取り組みを発信する契機となるものと考えております。当社は、「交通」という公共性の高いサービスを提供する企業としてサステナビリティに係る活動を推進し、社会の発展に貢献していきたいと考えております。

なお、本フレームワークについて、株式会社格付投資情報センター（R&I）よりセカンドオピニオンを取得しております。

## 2. 京成グループの概要

京成グループの中核企業である京成電鉄は、1909 年に成田山のお不動参りの電車として産声をあげました。1960 年には日本初の地下鉄との相互乗り入れ、1991 年に成田空港ターミナル直下への乗り入れ開始、2010 年 7 月に成田空港への新たなアクセスルートとして「成田スカイアクセス」を開業するなど、鉄道ネットワークの拡充と、お客様利便性の向上に努めて参りました。

また、京成グループは、鉄道事業を基盤としながらさまざまな事業展開を行ってまいりました。1932 年に直営のバス事業を開始、1933 年には不動産業に参入、さらに 1950 年代以降は、流通業やレジャー・サービス業への参入などを行い、今日では、東京都東部、千葉県、茨城県を主な営業エリアとし、「総合生活企業グループ」として多角的な事業を展開しています。

京成グループは、「安全・安心」を第一に行動し、お客様に喜ばれる商品・サービスを提供することで、健全な事業成長のもと、地域社会の発展に貢献して参ります。また、昨今求められている企業の社会的責任を念頭に、当社に関わる全ての人々から愛され選ばれる企業を目指して参ります。

### (1) 京成電鉄の事業内容

当社（単体）は、鉄道事業及び開発事業（不動産販売業、賃貸業）を展開しております。

#### 鉄道事業

- 鉄道事業は、お客様へ『輸送』とそれに付随する様々なサービスを提供するうえで、「安全性」・「快適性」・「迅速性」などを追求していくことが最大の使命になります。
- 当社の路線は、京成上野駅から成田空港駅を結ぶ京成本線をはじめ、成田スカイアクセス線・押上線・金町線・千葉線・千原線・東成田線の 7 路線からなり、東京都東部及び千葉県北西部を主たる事業エリアとして、全 152.3km で営業しております。



- スカイライナーに代表される成田空港へのアクセス、及び沿線の方々の足として重要な役割を果たし、1日あたり約80万人（2019年度実績）のお客様にご利用いただいております。沿線のお客様、また空港アクセスとしてご利用くださるお客様に喜ばれるサービスを提供すべく、魅力ある鉄道づくりに努めています。

## 開発事業

- 不動産販売業は、千葉県及び東京都区部を中心にマンション事業を展開しています。
- 賃貸業は、鉄道事業に次ぐ第2の柱として、当社グループの事業エリアを中心に、地域社会の発展に貢献すべく、商業施設・業務施設・住宅等の賃貸を行っています。
- 鉄道高架下やグループ会社の土地の有効活用を推進するとともに、収益性の高い賃貸施設を取得し、賃貸物件の拡充を図ります。



## (2) 京成グループの経営理念、経営計画

京成グループでは、グループ経営推進体制強化の一環として、グループ全体の経営理念、行動指針並びにスローガンを制定し、グループ全体で共通の理念に基づき行動しております。

グループ経営理念の「京成グループは、お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します」は、当グループの経営に取り組む基本姿勢及び存在意義・社会的使命という社会との基本的な関わり方を明らかにしたものです。

グループ行動指針は、グループ経営理念を達成するために、京成グループ各社で働く一人ひとりがどのような考え方でどのように行動すればよいのかを、「安全」「接客」「成長」「企業倫理」「環境」の5項目で簡潔に表したものです。

グループスローガンの「いろんな笑顔を知りたい 京成グループ」では、笑顔あふれるさわやかで豊かな生活空間を創造するお手伝いをする事により、社会の発展に貢献したいという京成グループの意志を表現しております。「いろんな笑顔」は、地域社会におけるお客様やグループ各社で働く一人ひとりの笑顔、更には成田空港を拠点とした日本と世界の出会いの笑顔など様々な笑顔を表しております。

## 京成グループ理念

### グループ経営理念

京成グループは、お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します。

### グループ行動指針

(安全) 私たちは、安全・安心を第一に行動します。  
(接客) 私たちは、あいさつを励行し、お客様の立場にたって行動します。  
(成長) 私たちは、絶えず自己革新し、新たな価値を創造します。  
(企業倫理) 私たちは、すべての人を大切にし、法令・規則を遵守します。  
(環境) 私たちは、自然環境に配慮し、行動します。

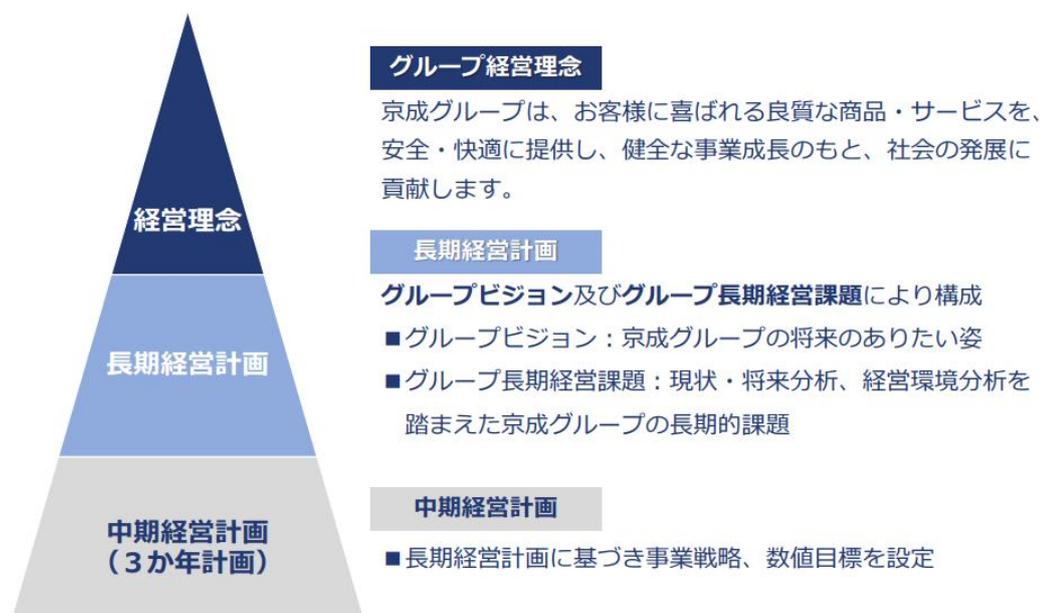
### グループスローガン

いろんな笑顔をつなぐ 京成グループ

2022年7月、京成グループ長期経営計画「Dプラン」及び中期経営計画「D1プラン」を発表しました。京成グループの更なる「発展」を期すとともに、事業を「力強く」また「革新的」に「日々」推進することを目指し、「Development」、「Dynamic」、「Drastic」、「Day by Day」の意味を込めて「Dプラン」と致しました。

2030年のグループビジョンとして、「京成グループの事業エリアのみならず、及び、日本の玄関口、成田空港の機能強化への寄与を通じ、サステナブルな社会の実現に貢献する」を掲げ、長期経営課題を着実に達成し、お客様や社会に貢献することを通じ、持続的成長を実現して参ります。

## 京成グループの経営計画体系



## 長期経営計画「Dプラン」

### 2030年のグループビジョン

京成グループの事業エリアのみなさまとの共創、及び、日本の玄関口、成田空港の機能強化への寄与を通じ、サステナブルな社会の実現に貢献する



### 長期経営課題

長期経営課題	重点施策	関連するSDGs
日々の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活力が持続するまちづくりの推進</li> <li>・エコロジカルなまちづくりの推進</li> </ul>	
観光振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存観光エリアの魅力向上</li> <li>・新たな観光資源やルートの開発</li> </ul>	
空港輸送	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田空港の更なる機能強化への対応</li> <li>・更なる利便性の追求</li> </ul>	
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境・社会に関する情報開示の充実</li> <li>・健全な財務体質の維持</li> <li>・コーポレート・ガバナンスの強化</li> </ul>	
人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイバーシティの推進</li> <li>・チャレンジする人材の育成</li> </ul>	
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策の強化</li> <li>・お客様の安全を守る取り組みの強化</li> <li>・テクノロジーの活用</li> </ul>	

### (3) サステナビリティ推進委員会の設置

SDGs に沿った社会的課題の解決に向け、地域社会との連携を強化するとともに、サステナビリティの取り組みを推進することを目的として、「サステナビリティ推進委員会」を設置しました。環境・社会に関する情報開示についても、TCFD 提言に基づく開示や有価証券報告書での人的資本の開示等について充実を図り、企業としての責任を遂行するとともに、環境や社会貢献への取り組みを推進して参ります。



### (4) サステナブルファイナンスの実行意義

当社は、「交通」という公共性の高いサービスを提供する企業として、CSR（企業の社会的責任）活動を推進するとともに、社会の発展に貢献していきたいと考えています。サステナブルファイナンスの実行は、社会課題の解決や当社のサステナビリティに係る活動を推進するための資金調達として位置づけており、ステークホルダーの皆様に対して、改めて当社の取り組みを発信する契機となるものと考えております。

### 3. 京成電鉄フレームワーク

本フレームワークでは、以下の原則及びガイドライン等において推奨される主要な要素（調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金への管理、レポートング）について定めております。

- ・グリーンボンド原則 2021（ICMA）
- ・ソーシャルボンド原則 2021（ICMA）
- ・サステナビリティボンドガイドライン 2021（ICMA）
- ・グリーンボンドガイドライン 2022 年版（環境省）
- ・ソーシャルボンドガイドライン 2021 年版（金融庁）
- ・グリーンローン原則 2021（LMA、APLMA、LSTA）
- ・ソーシャルローン原則 2021（LMA、APLMA、LSTA）
- ・グリーンローンガイドライン 2022 年版（環境省）

#### （1）調達資金の使途

サステナブルファイナンスで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たすプロジェクト（以下、適格プロジェクト）に関連する新規または既存のプロジェクトに充当する予定です。なお、既存のプロジェクトに充当する場合は、サステナブルファイナンスの調達から 3 年以内の支出を対象とします。

ファイナンス種別に応じて、以下のプロジェクトカテゴリへの資金充当を行います。

ファイナンス種別	プロジェクトカテゴリ
グリーンファイナンス （グリーンボンドまたはグリーンローン）	グリーンプロジェクト
ソーシャルファイナンス （ソーシャルボンドまたはソーシャルローン）	ソーシャルプロジェクト
サステナビリティファイナンス （サステナビリティボンドまたはサステナビリティローン）	グリーンプロジェクト 及びソーシャルプロジェクト

#### （2）適格クライテリア

##### グリーンプロジェクト

適格プロジェクト	プロジェクト例	事業区分
① 車両の導入に係る投資 	・3100 形・3200 形車両導入	クリーン輸送
② 鉄道関連設備に係る投資 	・変電所設備更新	クリーン輸送
	・法面補強実施 ・高架橋改修	気候変動への適応 (※1)

<p>③環境に配慮した不動産開発に係る投資（※2）</p> 	<p>・「京成千葉中央ビル」 （CASBEE-建築（新築）B+ランク）</p>	<p>グリーンビルディング</p>
---	---	-------------------

（※1）気候変動の現状と今後の予測を踏まえ、千葉県が定める「地域気候変動適応計画」等を参考にプロジェクトを行う。

（※2）CASBEE 自己評価または認証 B+ 以上、BEI（Building Energy-efficiency Index（設計一次エネルギー消費量を基準一次エネルギー消費量で除して算出）0.8 以下 等とする。

### ①車両の導入に係る投資

【プロジェクト例／3100 形車両導入】



- ・「受け継ぐ伝統と新たな価値の創造」をコンセプトに、新京成電鉄（80000 形）と共同開発した京成グループの新しい標準車両。
- ・モーターを効率よく制御する「SiC-VVVF 制御」システムや、減速時にモーターで発電した電力を架線に戻す「回生ブレーキ」を採用することで、3000 形より約 15%消費電力を削減。
- ・2021 年度は省エネ車両である 3100 形の新造車両 2 編成を導入。

### ②鉄道関連設備に係る投資

【プロジェクト例／高架橋改修】

- ・激甚化する豪雨、洪水、地震時の災害に対応すべく高架橋の改修を推進。



### 【プロジェクト例／法面補強】



- ・鉄道線路の盛土部、掘割部の線路脇には法面と呼ばれる斜面が、大雨等によって法面が崩れる土砂災害を防止するため、コンクリートフレーム等を使用し補強工事を実施。
- ・2021年度は宗吾隧道終点方坑口の工事完了。

### 【プロジェクト例／変電所設備更新】



- ・変電所の機械更新にあたり、環境負荷ゼロの材料を使用。
- ・変圧器：従来の鉱油に加え、生分解性のある植物油を絶縁油に使用し、廃棄時の環境負荷を低減
- ・整流器：ノンフロン、地球温暖化係数ゼロを実現

## ③環境に配慮した不動産開発に係る投資

- ・ CASBEE 自己評価または認証 B+ 以上、BEI (※) 0.8 以下 等

(※) BEI : Building Energy-efficiency Index (設計一次エネルギー消費量を基準一次エネルギー消費量で除して算出)

### 【プロジェクト例／京成千葉中央ビル】



- ・所在地：千葉県千葉市中央区本千葉町 15 番 1 号  
(京成千葉線「千葉中央駅」直結)
- ・本施設は、商業・オフィス・ホテルからなる 8 階建ての複合施設であり、CASBEE-建築 (新築) B+ ランクを取得。

## ソーシャルプロジェクト

適格プロジェクト	プロジェクト例	事業区分／対象とする人々
全ての利用者に安全、安心を提供するために必要な鉄道関連設備に係る投資  	・バリアフリー化 (ホームドア、ホーム固定柵、バリアフリースイレ、エレベーター、スロープ、内方線付点状ブロック等の設置)	<b>【事業区分】</b> ・社会経済的向上とエンパワーメント <b>【対象とする人々】</b> ・地域住民、高齢者、障がい者や外国人を含む全ての鉄道サービス利用者
	・駅舎耐震補強 ・連続立体交差化 ・駅舎リニューアル ・多言語対応 ・列車無線デジタル SR 化 (※3)	<b>【事業区分】</b> ・手ごろな価格の基本的インフラ整備 <b>【対象とする人々】</b> ・地域住民、高齢者、障がい者や外国人を含む全ての鉄道サービス利用者

(※3) SR : Space Radio (無線基地局アンテナを設置し、空間に電波を飛ばして車上アンテナと通信する)

### 【プロジェクト例／ホームドア】



・転落・触車などに対する安全性を向上させるため、2021年度末現在、ホームドア、ホーム固定柵を4駅に設置。引き続き、ホームドアの整備を進めていく予定。

### 【プロジェクト例／内方線付点状ブロック】



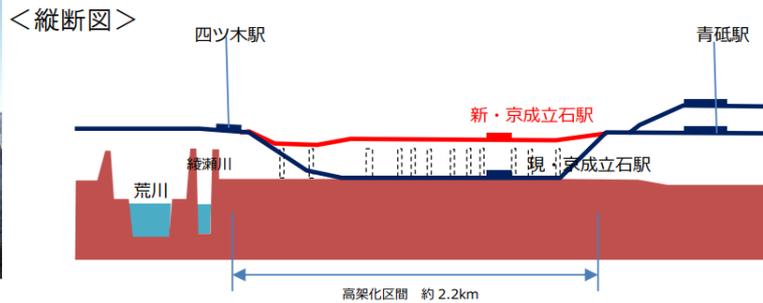
・視覚障がいのあるお客様に対してホームの内外を知らせる「内方線付点状ブロック」の設置に取り組んでおり、ホームドア設置済駅を除く全駅に設置完了。

【プロジェクト例／連続立体交差化】

・踏切事故や渋滞解消のため、京成押上線（青砥～四ツ木間）の立体交差化を推進。



立体交差化を進める押上線



**(3) 除外クライテリア**

サステナブルファイナンスで調達された資金は、下記に関連するプロジェクトには充当しません。

- ・ 所在国の法令を遵守していない不公正な取引、贈収賄、腐敗、恐喝、横領等の不適切な関係
- ・ 人権、環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

**(4) プロジェクトの評価と選定のプロセス**

当社経理部が関連する事業部門と協議を行い、適格プロジェクトを選定します。選定された適格プロジェクトの最終決定は経理担当執行役員が行います。

**(5) 環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス**

事業の実施にあたって、当社はプロジェクトの実行及び事業期間のすべてにおいて、環境リスク、社会リスク低減のため、プロジェクトにおけるネガティブインパクトや、事業実施の所在地の国・地方自治体にて求められる環境関連法令及び当該地域との協定を順守していることを確認し、社会倫理に適合した誠実な行動を取ります。各プロジェクトにおける想定されるネガティブインパクト及び対応方針は以下の通りです。

プロジェクト	ネガティブインパクト	対応方針
車両導入に係る投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存車両の廃棄</li> <li>・運行に伴う騒音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクルの向上等により、省資源化と廃棄物の削減に努める</li> </ul>
鉄道関連設備に係る投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存設備の廃棄</li> <li>・工事に伴う騒音</li> <li>・PCB 廃棄物の処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロングレール化し、運行時の騒音を低減</li> <li>・低騒音、低振動の工法</li> </ul>
環境に配慮した不動産開発に係る投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存ビル解体に伴う廃棄</li> <li>・工事に伴う騒音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低騒音、低振動の機械の採用</li> </ul>
全ての利用者に安全、安心を提供するために必要な鉄道関連設備に係る投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存設備の廃棄</li> <li>・工事に伴う騒音</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門業者による有害物質の無害化処理</li> </ul>

## (6) 調達資金の管理

当社ではサステナブルファイナンスの実行による手取り金について、全額が償還又は返済されるまで、当社経理部が調達資金の充当状況を管理します。調達資金は全額が充当されるまでの間は、現金または現金同等物にて管理されます。

## (7) レポーティング

### 資金充当状況レポーティング

当社は、適格プロジェクトに調達資金が全額充当されるまで、調達資金の状況（調達資金を充当した適格プロジェクト、プロジェクトの概要（進捗状況を含む）、充当額及び未充当額）を年次で、実務上可能な範囲で当社ウェブサイト上にて報告します。未充当資金が生じる場合、その金額又は割合、充当予定時期及び運用方法を実務上可能な範囲で報告します。

調達資金をリファイナンスに充当した場合は、①概算額（又は割合）、②リファイナンスに係るプロジェクト又は事業区分を開示します。

なお、調達資金の全額充当後、大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、適時に開示します。

### インパクトレポーティング

当社は、サステナブルファイナンスで調達した資金が全額償還又は返済されるまでの間、環境改善及び社会的な効果を示す以下の指標を年次で、実務上可能な範囲で当社ウェブサイト上にて報告します。

### グリーンプロジェクト

プロジェクト	レポーティング内容（例）
車両の導入に係る投資	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロジェクトの概要</li><li>・新規導入車両数</li><li>・省エネルギー性能の新型車両導入による年間 CO2 削減量 (t-CO2)</li></ul>
鉄道関連設備に係る投資	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロジェクトの概要（鉄道関連設備の新設・維持・改修・更新に係る工事の実施内容）</li><li>・法面補強実施内容</li><li>・高架橋改修内容</li><li>・変電所設備更新内容</li></ul>
環境に配慮した不動産開発に係る投資	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロジェクトの概要</li><li>・取得した環境認証の種類とランク</li><li>・年間 CO2 削減量 (t-CO2)</li></ul>

## ソーシャルプロジェクト

プロジェクト	レポート内容		
	アウトプット	アウトカム	インパクト
全ての利用者に安全、安心を提供するために必要な鉄道関連設備に係る投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設置状況、設置数 (ホームドア、ホーム固定柵、バリアフリートイレ、エレベーター、スロープ、内方線付点状ブロック等)</li> <li>・連続立体交差化の状況</li> <li>・踏切の除去数</li> <li>・耐震補強箇所、補強内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の円滑化</li> <li>・利便性の向上 →踏切除去による道路遮断時間の削減等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ・サービスの向上</li> </ul>

アウトカム：対象となる人々にもたらされる便益や変化（成果）

インパクト：アウトカムの実現によって目指す最終的な社会的な効果（目標）

## (8) 外部レビュー

当社は、独立した外部評価機関である株式会社格付投資情報センター（R&I）より、本フレームワークについて以下の原則及びガイドライン等との適合性に対する評価を取得しております。

- ・グリーンボンド原則 2021（ICMA）
- ・ソーシャルボンド原則 2021（ICMA）
- ・サステナビリティボンドガイドライン 2021（ICMA）
- ・グリーンボンドガイドライン 2022 年版（環境省）
- ・ソーシャルボンドガイドライン 2021 年版（金融庁）
- ・グリーンローン原則 2021（LMA、APLMA、LSTA）
- ・ソーシャルローン原則 2021（LMA、APLMA、LSTA）
- ・グリーンローンガイドライン 2022 年版（環境省）

以上